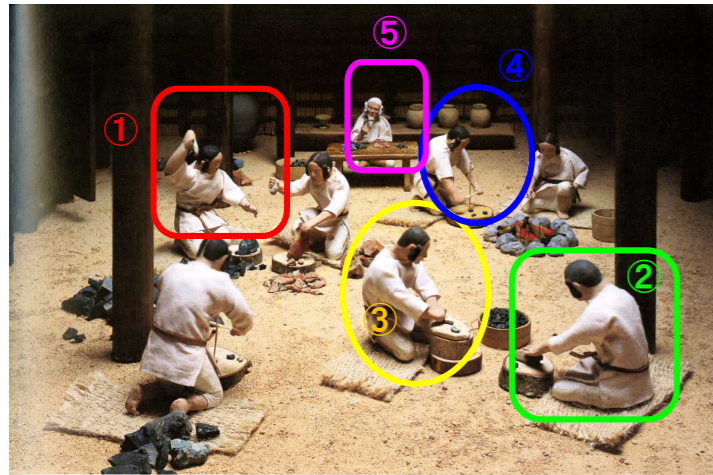


No.4	時代	古墳時代	遺跡	玉作工房跡（松江市玉湯町）など
------	----	------	----	-----------------

# 古代の宝石「まが玉」

「玉」はその神秘的な輝きから、古来より装身具として使われたり、儀式などに用いられました。古墳時代になると、「権威のシンボル」としての役割を果たしていたこともありました。松江市玉湯町は、全国における玉作の中心地で、花仙山産の原石で作られた玉は全国で見つかっています。



玉作工房の復元予想図と作業工程



まが玉ができる過程

- ① 大きな原石を小さく砕いている。
- ② ちょうどいい大きさに削っている。
- ③ 頑張ってひたすら磨いている。
- ④ 玉に孔をあけている。
- ⑤ 長老が玉の出来を確かめている。

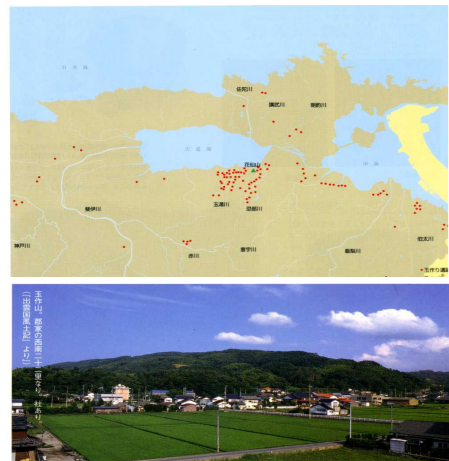
まが玉を身につけた  
馬上の大首長

築山古墳（出雲市）の  
出土品から復元



### 学習のポイント

- 松江市玉湯町は、古代は玉作の中心地であった。
- 王は権威のシンボルとしての役割を果たしていた。
- 玉を作る工程は非常に大変であった。



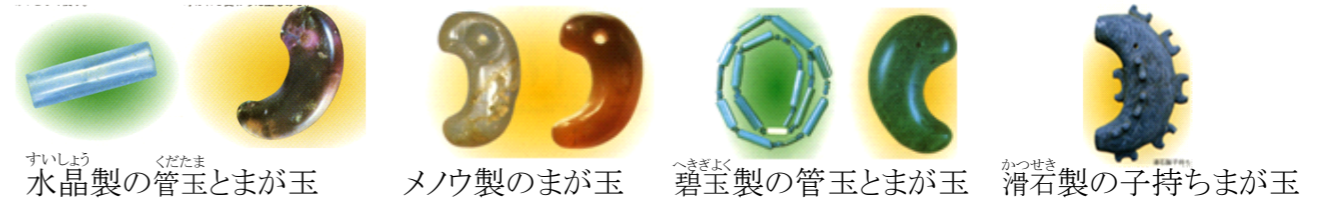
玉作工房跡（●）と花仙山



まが玉の広がり

# 古代の宝石「まが玉」

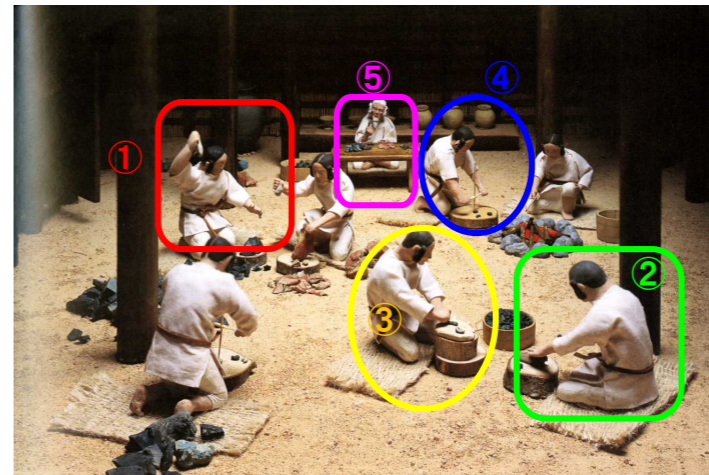
「玉」はその神秘的な輝きから、飾りとして身につけられていました。古墳時代になると、「権威のシンボル」としての役割を果たしていたこともありました。松江市玉湯町は、全国における玉作の中心地で、花仙山産の原石で作られた玉は全国で見つかっています。



水晶製の管玉とまが玉      メノウ製のまが玉      碧玉製の管玉とまが玉      滑石製の子持ちまが玉

まが玉作りの工房をのぞいてみましょう。

①～⑤の人たちは何をしているのかな？



- ① ( )
- ② ちょうどいい大きさに割っている。
- ③ がんばってひたすら( )。
- ④ まが玉に( )。
- ⑤ 長老が( )。

まが玉作りで苦労した点を想像してみよう。

資料の出典

「いにしへの島根ガイドブック 1996 島根県古代文化センター  
「古代出雲歴史博物館 展示ガイド」 2007 古代出雲歴史博物館



まが玉の広がり